

お待たせしました 国見のあんぽ柿

12月20日、3年ぶりに
出荷できることになった
くにみのあんぽ

伊達みらい国見共選場で
あんぽ柿加工再開セレモ
ニーが農協関係者、生産者
が集まり行われました。
現在市場に出荷されてい
るあんぽ柿は、全て非破壊
検査機により放射性セシウ
ム濃度が測定され、基準値
以内の「あんぽ柿」のみ市
場に出荷されています。

柿をイメージしたくすだ
まは、町職員の手作り。
出荷の成功をみんなで祈
りながら。



セレモニニーには、多くの
生産者が同席。今年出荷で
きた喜びは大きく、今後の
あんぽ柿生産拡大を誓いま
した。

来年こそ
全量生産
全量出荷
を願って！



復興大臣、 副大臣に要望

12月17日、太田久雄町長
は、復興庁福島復興局に浜
田昌良副大臣を訪問し、中
間貯蔵施設の早期建設と具
体的な工程を明示すること
や、県北浄化センター下水
汚泥問題での地域住民への
損害賠償及び周辺対策事業
への支援を要望しました。

さらに、19日東京赤坂の
復興庁を訪れ、根本匠復興
大臣にも中間貯蔵施設の早
期着工と汚泥問題の解決に
ついて要望し、国道4号線
の4車線化事業についても、
新年度以降も引き続き
予算の拡大と事業を推進す
るよう要望しました。



根本匠大臣に要望書を手渡す
太田久雄町長

大会で八島議長が特 別決議を提案



提案を行う八島議長

11月13日、第57回町村議
会議長全国大会が東京・N
HKホールで行われまし
た。

大会では、八島博正議長
(福島県町村議会議長会長)
が「東日本大震災からの復
興と大規模災害対策の確立
に関する特別決議」を提案
しました。特に、原発事故
によるすべての被害・損害
への賠償や原発事故の収束
と確実な汚染水処理の対策
などを求め、全国に福島
の復興と災害対策の強化を訴
えました。

東京葛西のアンテナショップトップセールス (あんぽ柿・米・りんごを販売)

12月21日、3年ぶりに出荷再開となった「あんぽ柿」と国見町産の新米、りんごの販売を県の首都圏アンテナショップ「ふくしま市場」(イトーヨーカドー葛西店・桜田武店長)で、太田久雄町長、町の青年農業者、ミスピーチキャンペーンクルーと行いました。

再開を待ちわびた人たちが次々に買い求め、店頭には積まれたあんぽ柿は瞬間に完売しました。

試食した人からは、「上品な甘さが素晴らしい」「まるで和菓子のような」の声が聞かれ、中には5〜6個入りのトレーを3・4個まとめて買う姿も見られました。



あんぽ柿のPRを行う太田久雄町長

太田久雄町長は、「あんぽ柿の販売が、風評被害の完全払拭につながると考え、ずっと取り組んできた。今日の販売をきっかけに国見町産品のさらなるPRを図っていきたい」と意気込みを語りました。

ふくしま市場の桜田店長は「あんぽ柿再開を望む声に応えてくれた国見町に感謝したい。」と話していました。

年末年始における 交通事故防止活動出動式

12月9日、福島北警察署桑折分庁舎において年末年始における交通事故防止活動出動式が行われました。国見・桑折両町の交通・防犯の関係者ら約60人が出席し、交通事故を防止、地域の安全を守る決意を新たにしました。

国見町の「くにみもたん」、桑折町の「ホタビー」の両キャラクターが「交通事故」「犯罪」「なりすまし詐欺」と書かれた紙風船を大きなうちわで吹き飛ばし、参加者とともに事件・事故の根絶を祈りました。

その後、国見町の関係者はコープマート国見店の駐車場でチラシを配り、買い物へ来ている方へ交通安全や防犯の推進を訴えました。



交通事故防止を呼び掛けるももたん

響き渡る魂の鼓動

12月8日「復興・絆魂の響き和太鼓フェスティバル」が、観月台文化センター体育館において開催されました。



みちのくボンガーズの司会進行により、伝承太鼓や創作太鼓の迫力ある演奏が繰り広げられました。合間には、みちのくボンガーズのコントや太鼓演奏もあり、会場は約500名の観客の笑いと熱気に包まれていました。



また、会場では甘酒の振る舞いのほか、国見パーカーなどの特産品が販売されました。

出演 みちのくボンガーズ
(写真は「母心」)
錦町太鼓保存会(右下写真)
山木屋太鼓 鴉かす(右上写真)